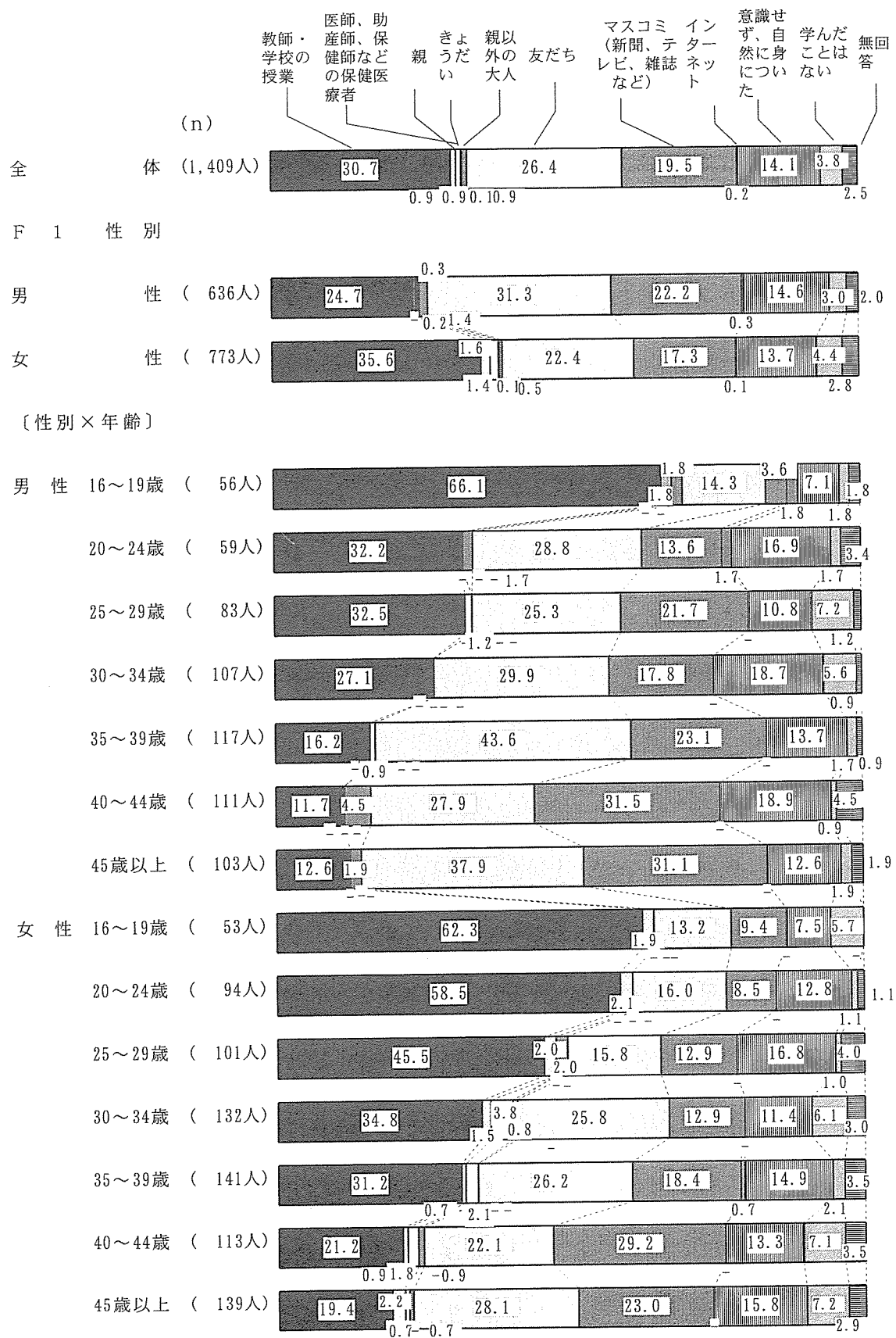
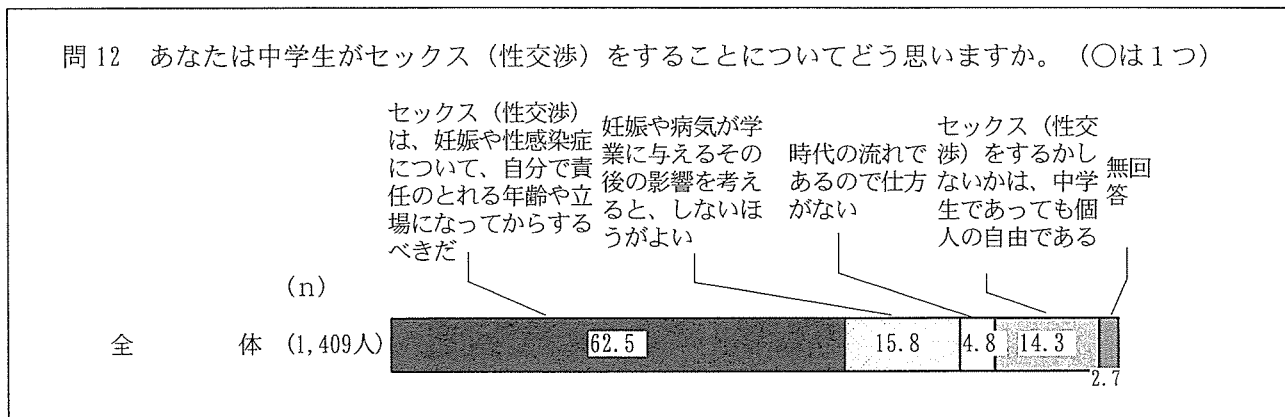


図3-1-1 避妊方法の主な情報源（性別、性・年齢別）



2 中学生のセックス（性交渉）について



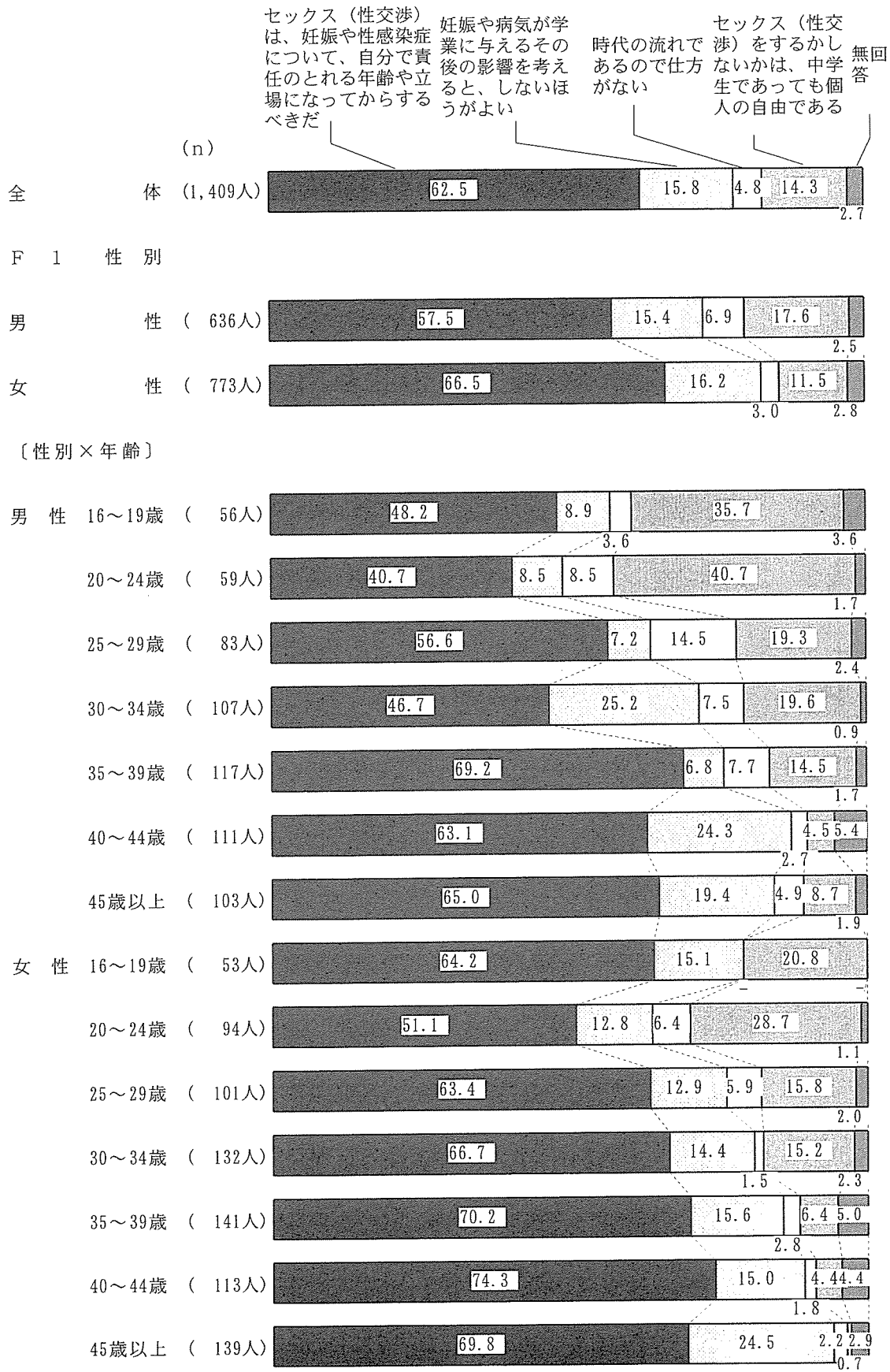
中学生がセックス（性交渉）をすることについての意識を聞いたところ、「セックス（性交渉）は、妊娠や性感染症について、自分で責任のとれる年齢や立場になってからすべきだ」（62.5%）という者が6割強を占め、「妊娠や病気が学業に与えるその後の影響を考えると、しないほうがよい」（15.8%）という者を合わせると、8割近くが中学生のセックス（性交渉）は望ましくないと考えている。

一方、「セックス（性交渉）をするかしないかは、中学生であっても個人の自由である」（14.3%）という者は1割半ばで、「時代の流れであるので仕方がない」という者は4.8%である。

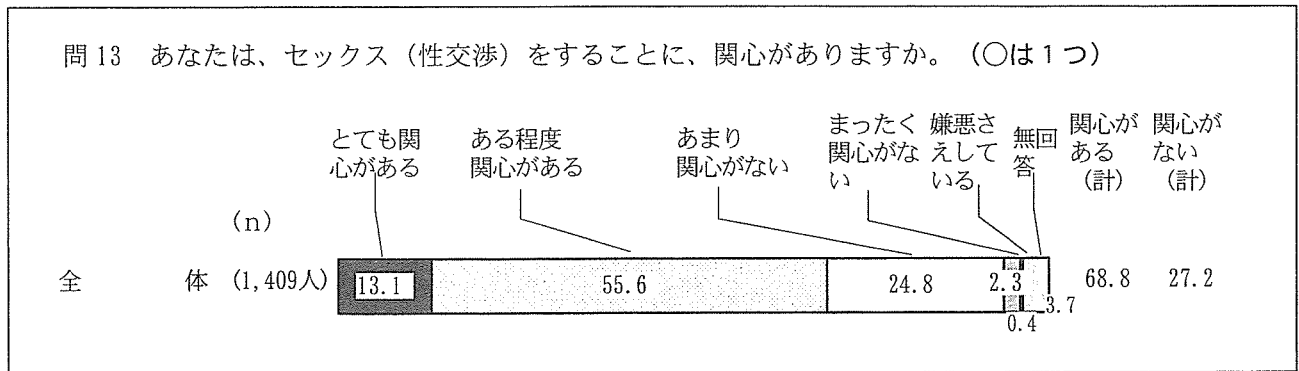
性別にみると（図3-2-1）、「自分で責任のとれる年齢や立場になってからすべきだ」（男性 57.5%、女性 66.5%）という者は女性では6割台後半を占めており、男性を9ポイント上回っている。一方、「中学生であっても個人の自由である」（同 17.6%、11.5%）という者は男性で2割弱と多い。

性・年齢別にみると（図3-2-1）、「自分で責任のとれる年齢や立場になってからすべきだ」という者は、男性の35歳以上と女性の25歳以上の年齢層で多くなっており、特に女性の40～44歳（74.3%）では7割半ばを占めている。また、「自分で責任のとれる年齢や立場になってからすべきだ」と「妊娠や病気が学業に与えるその後の影響を考えると、しないほうがよい」を合わせた割合でみると、男女とも年齢が高くなるほど多くなる傾向がみられる。最も多いのは女性の45歳以上で、「自分で責任のとれる年齢や立場になってからすべきだ」（69.8%）と「妊娠や病気が学業に与えるその後の影響を考えると、しないほうがよい」（24.5%）をあわせると94.2%となり、9割半ばの者が中学生のセックス（性交渉）は望ましくないと考えている。一方、「中学生であっても個人の自由である」という者は男女とも若年齢ほど多い傾向がみられ、該当数は少ないが男性の24歳以下の年齢層では3割半ばを超えている。

図3-2-1 中学生のセックス（性交渉）について（性別、性・年齢別）



3 セックス（性交渉）することへの関心の有無

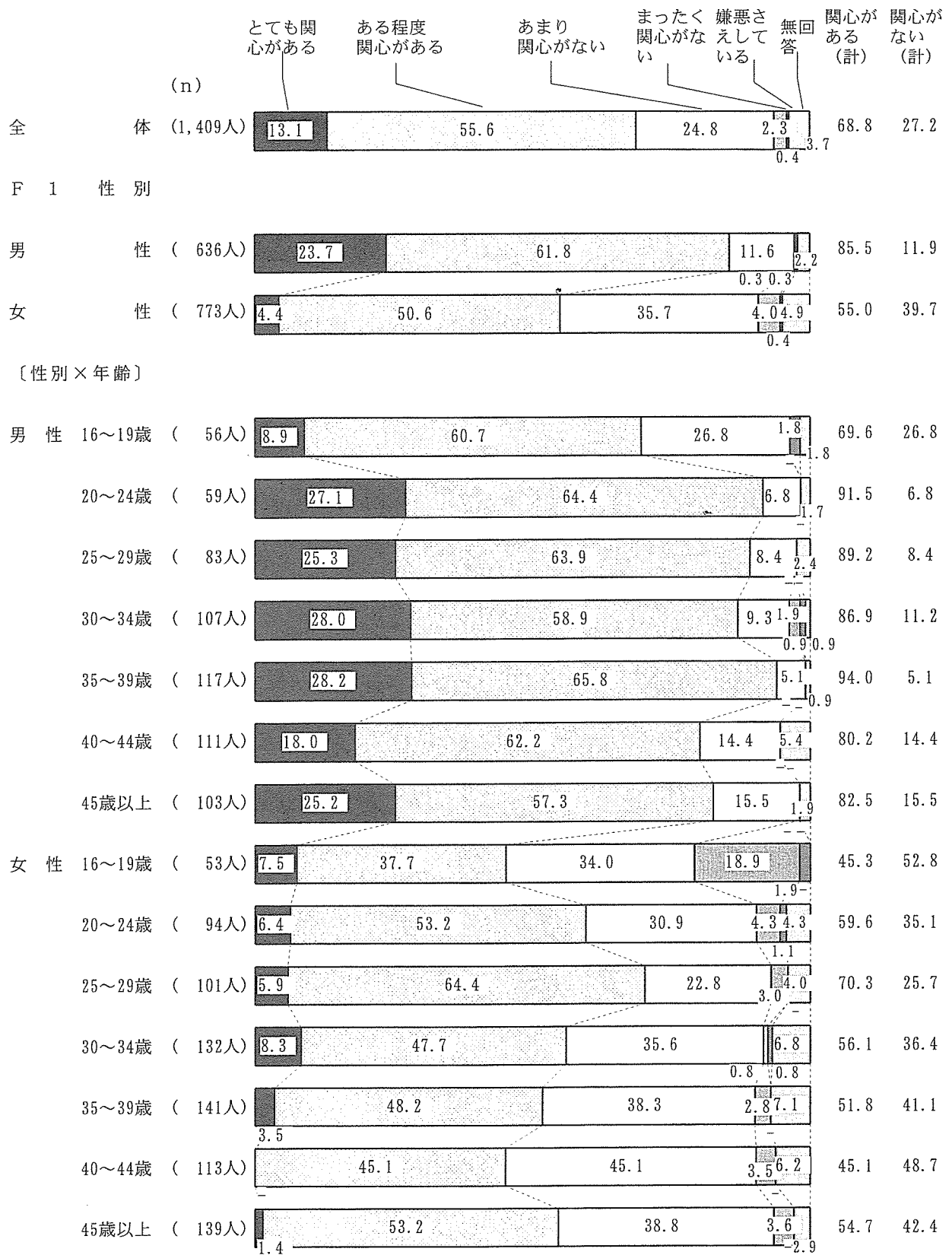


セックス（性交渉）をすることへの関心の有無を聞いたところ、「とても関心がある」（13.1%）という者は1割強で、「ある程度関心がある」者（55.6%）を合わせると、7割近くがセックスをすることに『関心がある』（68.8%）と答えている。

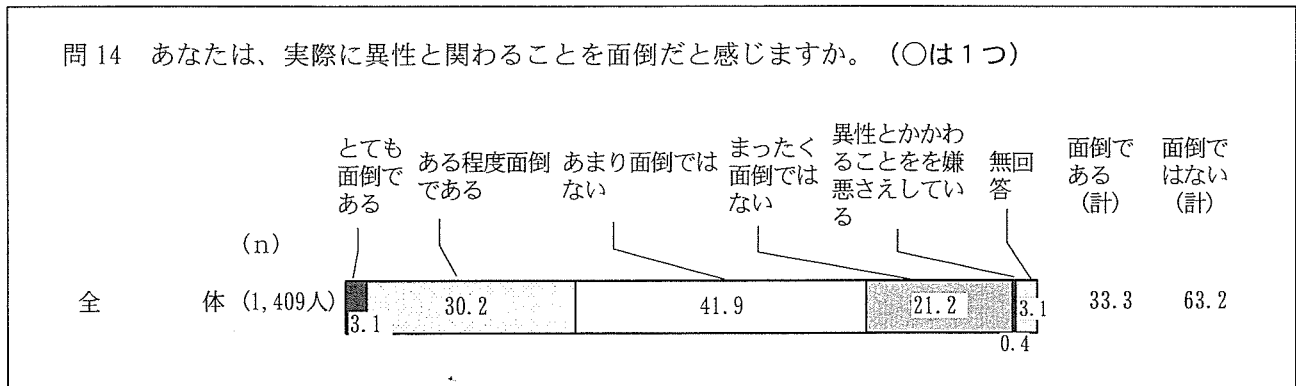
性別にみると（図3-3-1）、セックスをすることに「とても関心がある」（男性 23.7%、女性 4.4%）という者は男性で2割を超え、女性を 19 ポイント上回っている。「ある程度関心がある」（同 61.8%、50.6%）という者を合わせたセックスに『関心がある』（男性 85.5%、女性 55.0%）者でみると、男性8割半ばを占めており女性を約 31 ポイント上回っている。

性・年齢別にみると（図3-3-1）、セックスをすることに「とても関心がある」という者は男性の 20～39 歳と 45 歳以上の年齢層で2割台後半を占めている。また、「ある程度関心がある」という者を合わせた『関心がある』という者は男性の 20 歳以上の年齢層すべてで8割を超え、特に男性の 20 代と 35～39 歳の年齢層では9割前後と多くなっている。これに対して、女性では 25 歳以上で年齢が高くなるほど「あまり関心がない」もしくは「まったく関心がない」と答えた『関心がない』層が多くなる傾向がみられ、特に女性の 40～44 歳（48.7%）ではほぼ2人に1人が『関心がない』と答えている。

図3-3-1 セックス（性交渉）することへの関心の有無（性別、性・年齢別）



4 異性と関わることの意識

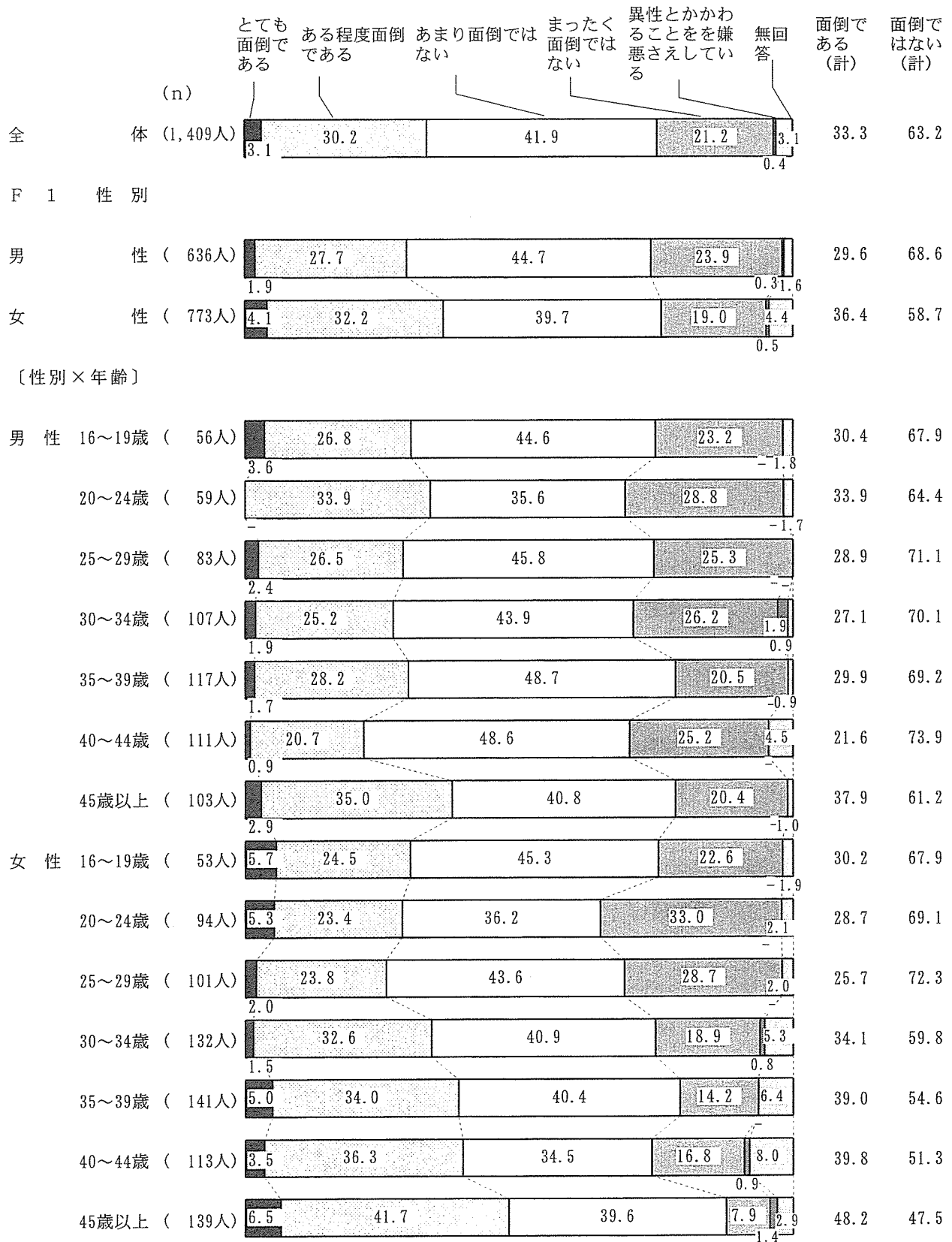


実際に異性と関わることへの意識を聞いたところ、「とても面倒である」という者は 3.1%にとどまり、「ある程度面倒である」(30.2%)という者を合わせても異性と関わるのが『面倒である』(33.3%)という者は 3人に1人で、『面倒ではない』(63.2%)と感じている者が 6割強を占める。

性別にみると(図3-4-1)、女性では3割半ばの者が『面倒である』(36.4%)と感じている。一方、男性では『面倒である』(29.6%)者は約3割である。また、男性では「まったく面倒ではない」(23.9%)という者が2割強で多くなっている。

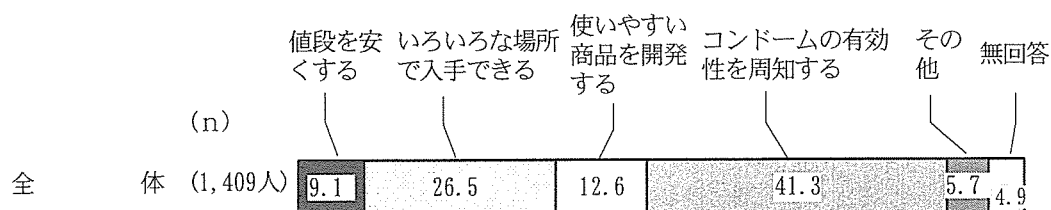
性・年齢別にみると(図3-4-1)、『面倒である』という者は男性では45歳以上(35.0%)が多い。女性では25歳以上の年齢層で年齢が高くなるほど『面倒である』と感じる者が多くなっており、45歳以上(48.2%)の女性ではほぼ2人に1人が『面倒である』と感じている。

図3-4-1 異性と関わることの意識（性別、性・年齢別）



5 コンドーム利用促進策

問 15 性感染症予防のためにもコンドームは重要ですが、どうすればコンドームの利用が増えると思いますか。(○は1つ)

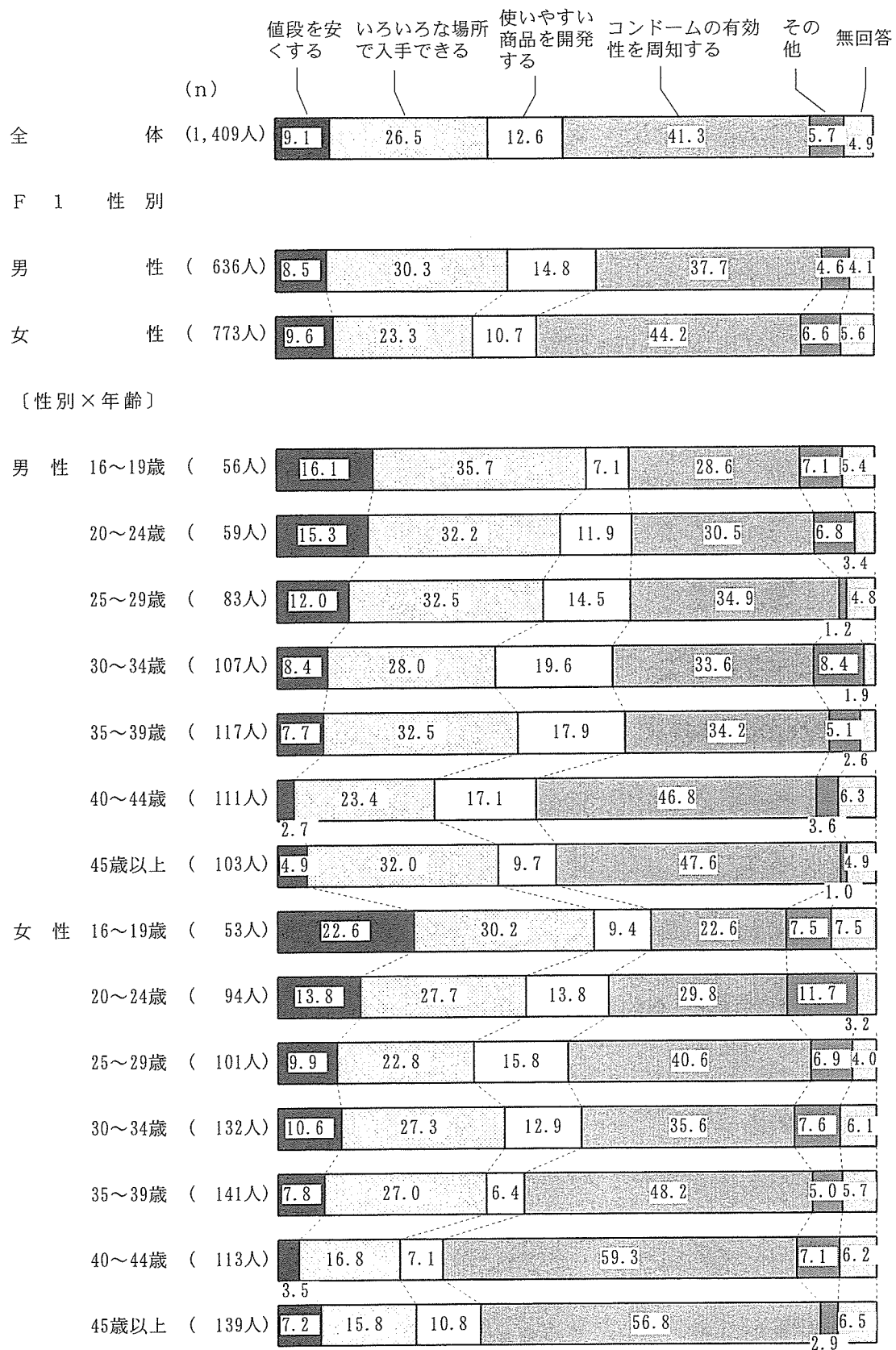


コンドームの利用を増やすために何が有効な手段であると思うかを聞いたところ、「コンドームの有効性を周知する」という者が41.3%、「いろいろな場所で入手できる」という者が26.5%となっている。「使いやすい商品を開発する」(12.6%)と「値段を安くする」(9.1%)は1割前後である。

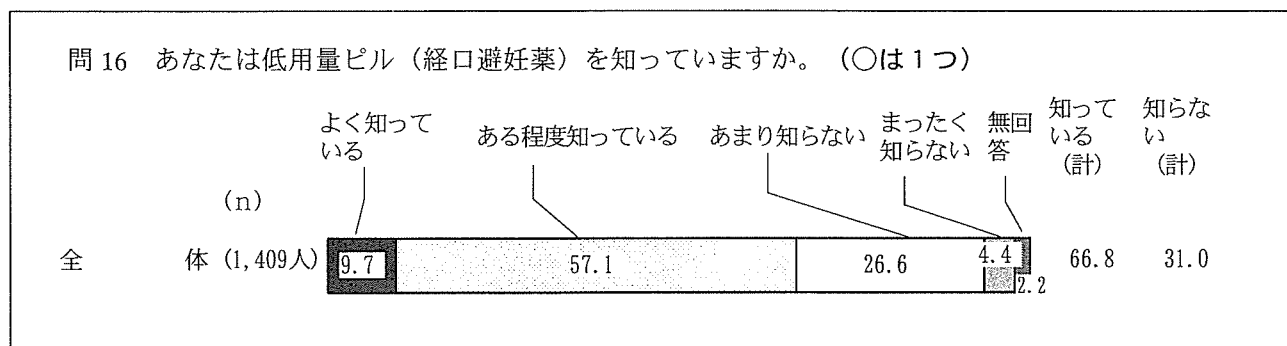
性別にみると(図3-5-1)、「コンドームの有効性を周知する」は男性(37.7%)より女性(44.2%)に多い。一方、「いろいろな場所で入手できる」(男性30.3%、女性23.3%)、「使いやすい商品を開発する」(同14.8%、10.7%)は女性より男性に多い。

性・年齢別にみると(図3-5-1)、「コンドームの有効性を周知する」と答えた者は男性の40歳以上と女性の35歳以上の年齢層で多く、最も多い女性の40~44歳(59.3%)では約6割を占めている。「いろいろな場所で入手できる」と答えた者は、男性では40~44歳を除いた年齢層で3割前後を占めている。一方、女性の40歳以上の年齢層では「いろいろな場所で入手できる」と答えた者は1割半ばに過ぎない。「使いやすい商品を開発する」と答えた者は男性の30~34歳(19.6%)で多い。また、「値段を安くする」は、若年齢ほど多い傾向がみられ、特に、該当数は少ないが女性の16~19歳(22.6%)では2割強を占めている。

図3-5-1 コンドーム利用促進策（性別、性・年齢別）



6 低用量ピル（経口避妊薬）の周知



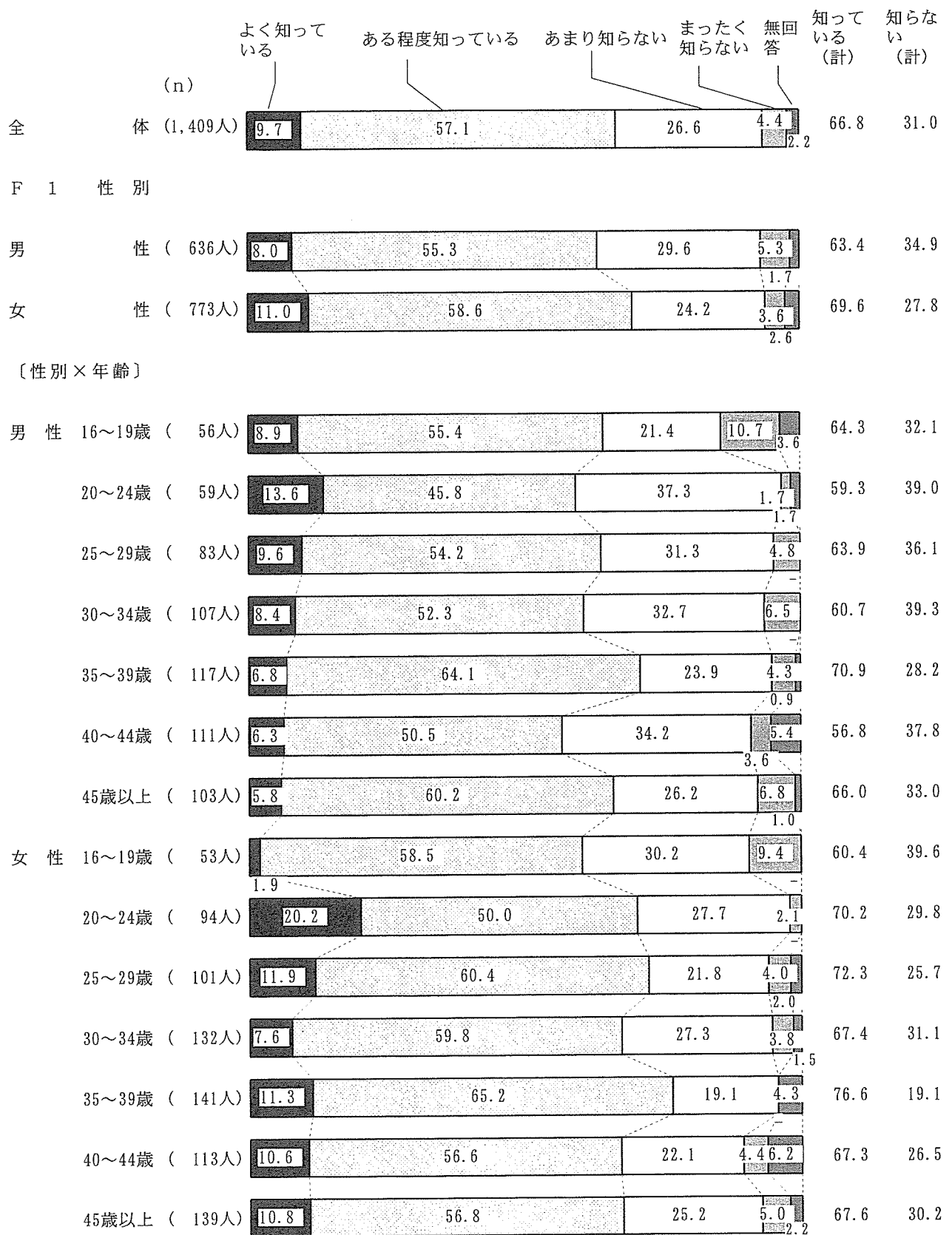
低用量ピル（経口避妊薬）のことを「よく知っている」（9.7%）という者は約1割で、「ある程度知っている」（57.1%）という者を合わせると、3人に2人は『知っている』（66.8%）と答えている。

性別にみると（図3-6-1）、「よく知っている」と「ある程度知っている」を合わせた『知っている』者は男性（63.4%）より女性（69.3%）に多く、女性の約7割が低用量ピルのことを『知っている』と答えている。

性・年齢別にみると（図3-6-1）、低用量ピルのことを「よく知っている」という者は女性 20～24 歳（20.2%）で2割、「ある程度知っている」という者は女性の 35～39 歳（65.2%）でほぼ3人に2人を占め、それぞれ他の性・年齢層より多くなっている。特に、女性の 35～39 歳では7割半ばの者が『知っている』（76.6%）と答えている。一方、男性の 40～44 歳では低用量ピルのことを『知っている』（56.8%）者は5割半ばに過ぎない。

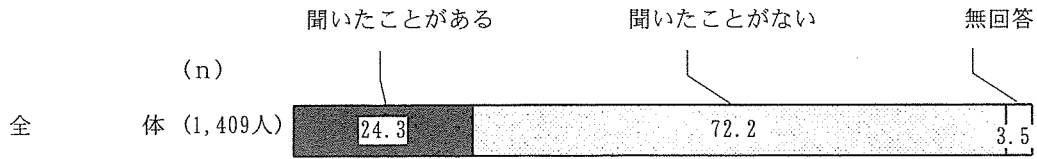
また、該当数は少ないが、男女とも 16～19 歳の年齢層の1割前後が「まったく知らない」と答えている。

図3-6-1 低用量ピル（経口避妊薬）の周知（性別、性・年齢別）



7 「緊急避妊法」「モーニングアフターピル」「性交後避妊」の周知

問 17 あなたは、「緊急避妊法」「モーニングアフターピル」「性交後避妊」のいずれかの言葉を聞いたことがありますか。（○は1つ）

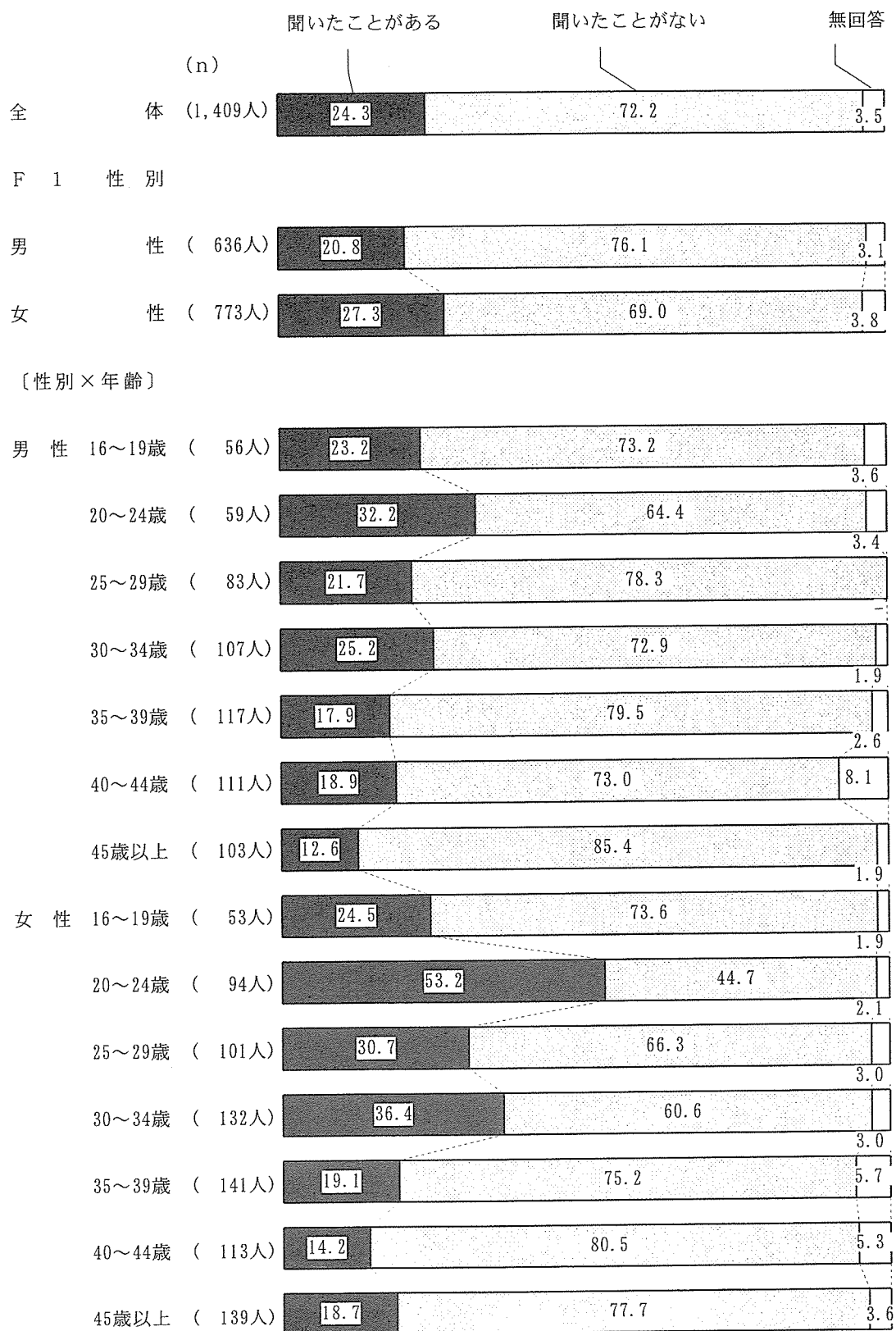


“緊急避妊法” “モーニングアフターピル” “性交後避妊” のいずれかの言葉を「聞いたことがある」（24.3%）者はほぼ4人に1人、「聞いたことがない」（72.2%）者は7割強である。

性別にみると（図3-7-1），“緊急避妊法” “モーニングアフターピル” “性交後避妊” のいずれかの言葉を「聞いたことがある」という者は男性（20.8%）より女性（27.3%）に多く、女性の3割近くが「聞いたことがある」と答えている。

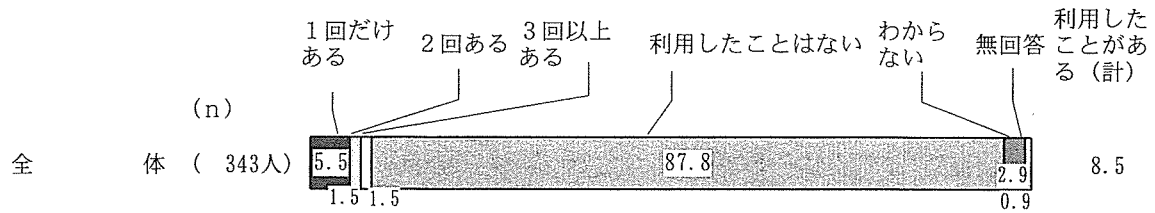
性・年齢別にみると（図3-7-1）、「聞いたことがある」という者は女性の20～24歳（53.2%）、25～29歳（30.9%）、30～34歳（36.4%）の年齢層で、他の性・年齢層より多くなっている。一方、「聞いたことがない」という者は男性の45歳以上（85.4%）と女性の40～44歳（80.5%）で8割を超え、他の年齢層より多くなっている。

図3-7-1 「緊急避妊法」「モーニングアフターピル」「性交後避妊」の周知
(性別、性・年齢別)



【問 17 で「1」と答えた方にお聞きします。】

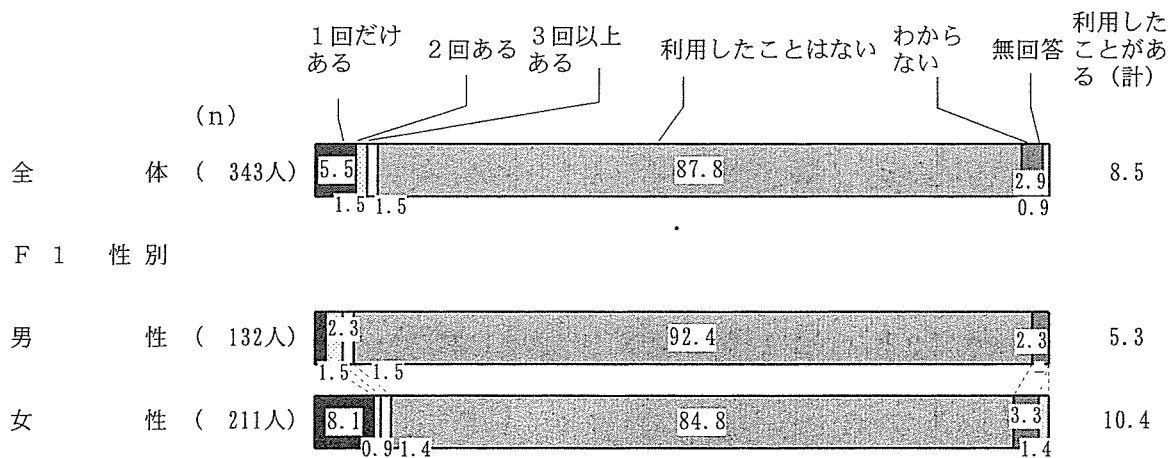
問 18 上記のいずれかの言葉に該当する方法を利用したことがありますか。いくつかの方法を利用したことがある方は、合計の回数をお答えください。（〇は1つ）



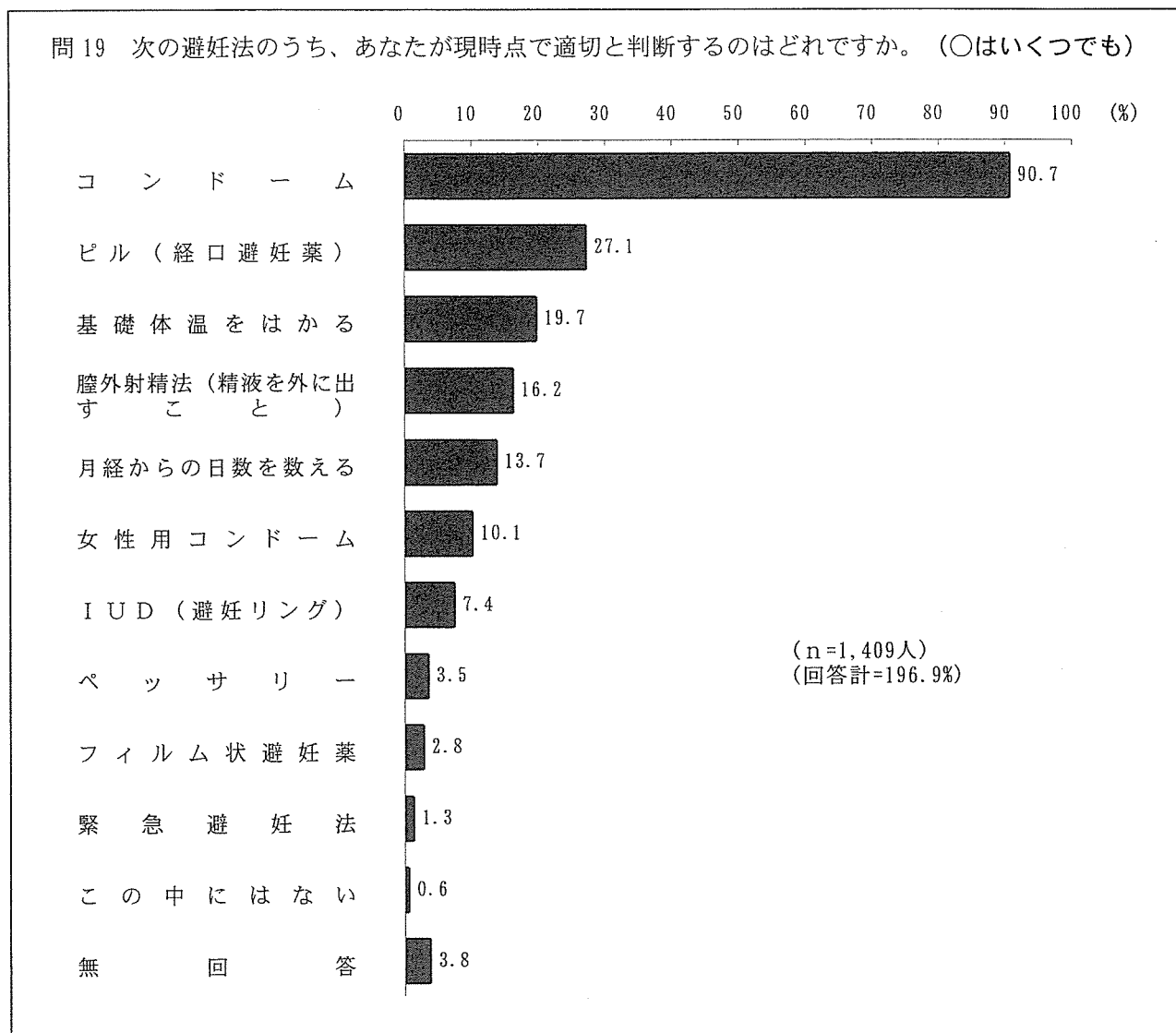
“緊急避妊法” “モーニングアフターピル” “性交後避妊” のいずれかの言葉を聞いたことがあるという者 (343 人) に、いずれかに該当する方法を利用したことがあるかどうかを聞いたところ、「1回だけある」者が 5.5%、「2回ある」者は 1.5%、「3回以上ある」者は 1.5%で、「利用したことはない」 (87.8%) という者が 9割近くを占めている。

性別にみると (図 3-7-2)、「1回だけある」は男性 (1.5%) より女性 (8.1%) が約 7ポイント多くなっており、統計上の差がみられる。一方、「利用したことはない」者は男性 (92.4%) の 9割を超えている。

図 3-7-2 “緊急避妊法” “モーニングアフターピル” “性交後避妊” の利用経験



8 現時点で適切と判断する避妊法



現時点で適切と判断する避妊法を全員に聞いたところ、「コンドーム」(90.7%)が9割と際立って多くあげられ、次いで「ピル(経口避妊薬)」(27.1%)が3割弱、以下「基礎体温をはかる」(19.7%)、「膣外射精法(精液を外に出すこと)」(16.2%)、「月経からの日数を数える」(13.7%)などが1割台で続いている。

性別にみると（表3-8-1）、男女とも「コンドーム」（男性 91.2%、女性 90.3%）が9割で最も多く、次いで「ピル（経口避妊薬）」（男性 25.0%、女性 28.8%）も男性の4人に1人、女性の3割弱が適切な避妊法と判断している。また、女性では「基礎体温をはかる」（27.8%）も「ピル（経口避妊薬）」と同じく3割弱の者があげている。

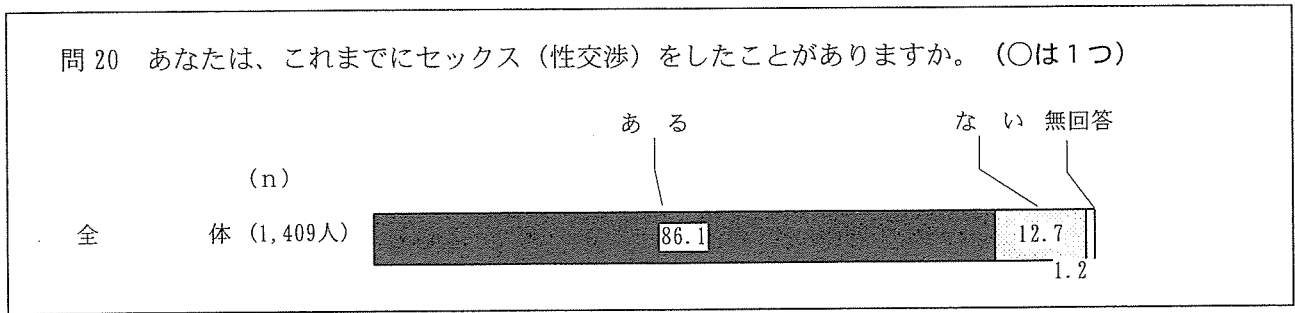
性・年齢別にみると（表3-8-1）、「ピル（経口避妊薬）」は男性の45歳以上（28.2%）を除き、男女とも若年齢ほど多くなる傾向がみられる。特に女性の24歳以下の年齢層では4割近い者が「ピル（経口避妊薬）」を現時点で適切と判断する避妊法であると考えており、他の性・年齢層より多くなっている。「基礎体温をはかる」は女性の20～44歳の年齢層で多く、特に25～29歳（31.7%）と35～39歳（34.0%）では3割を超えている。「膈外射精法」は該当数は少ないが男性の20～24歳（30.5%）で多い。また、「女性用コンドーム」は男女とも24歳以下の年齢層の2割以上の者が現時点での適切な避妊法と考えている。

表3-8-1 現時点で適切と判断する避妊法（性別、性・年齢別）

	(n)	コンドーム	ピル（経口避妊薬）	基礎体温をはかる	膈外射精法（精液を外に出すこと）	月経からの日数を数える	女性用コンドーム	IUD（避妊リング）	ベッサリ	フィルム状避妊薬
全体	1409	90.7	27.1	19.7	16.2	13.7	10.1	7.4	3.5	2.8
F1 性別										
男性	636	91.2	25.0	9.7	17.6	11.3	11.8	4.1	3.5	2.5
女性	773	90.3	28.8	27.8	15.0	15.7	8.7	10.1	3.5	3.1
(性別×年齢)										
男性 16～19歳	56	87.5	37.5	14.3	10.7	12.5	25.0	3.6	5.4	5.4
20～24歳	59	93.2	27.1	6.8	30.5	16.9	23.7	3.4	6.8	3.4
25～29歳	83	96.4	27.7	8.4	13.3	10.8	14.5	3.6	1.2	1.2
30～34歳	107	92.5	23.4	9.3	22.4	6.5	15.0	5.6	6.5	2.8
35～39歳	117	94.0	22.2	12.0	15.4	10.3	6.0	3.4	1.7	3.4
40～44歳	111	90.1	17.1	10.8	15.3	12.6	7.2	4.5	0.9	-
45歳以上	103	84.5	28.2	6.8	17.5	12.6	3.9	3.9	3.9	2.9
女性 16～19歳	53	88.7	39.6	13.2	13.2	15.1	22.6	3.8	3.8	1.9
20～24歳	94	92.6	37.2	29.8	16.0	16.0	22.3	9.6	9.6	2.1
25～29歳	101	92.1	34.7	31.7	19.8	19.8	9.9	5.0	1.0	2.0
30～34歳	132	87.9	27.3	26.5	15.2	18.2	3.0	7.6	1.5	3.0
35～39歳	141	90.8	26.2	34.0	13.5	14.9	7.8	7.8	2.8	5.7
40～44歳	113	88.5	24.8	28.3	12.4	13.3	2.7	16.8	3.5	3.5
45歳以上	139	91.4	22.3	23.7	15.1	12.9	4.3	15.8	3.6	2.2
	(n)	緊急避妊法	この中にはない	無回答	回答計					
全体	1409	1.3	0.6	3.8	196.9					
F1 性別										
男性	636	1.1	0.8	3.1	181.8					
女性	773	1.6	0.5	4.3	209.3					
(性別×年齢)										
男性 16～19歳	56	-	5.4	3.6	210.7					
20～24歳	59	3.4	-	3.4	218.6					
25～29歳	83	1.2	1.2	-	179.5					
30～34歳	107	2.8	-	2.8	189.7					
35～39歳	117	-	-	1.7	170.1					
40～44歳	111	0.9	0.9	4.5	164.9					
45歳以上	103	-	-	5.8	169.9					
女性 16～19歳	53	3.8	-	5.7	211.3					
20～24歳	94	5.3	-	3.2	243.6					
25～29歳	101	-	-	4.0	219.8					
30～34歳	132	0.8	2.3	3.8	197.0					
35～39歳	141	0.7	0.7	5.0	209.9					
40～44歳	113	0.9	-	6.2	200.9					
45歳以上	139	1.4	-	2.9	195.7					

第4章 自分自身の性行動

1 これまでのセックス（性交渉）経験の有無

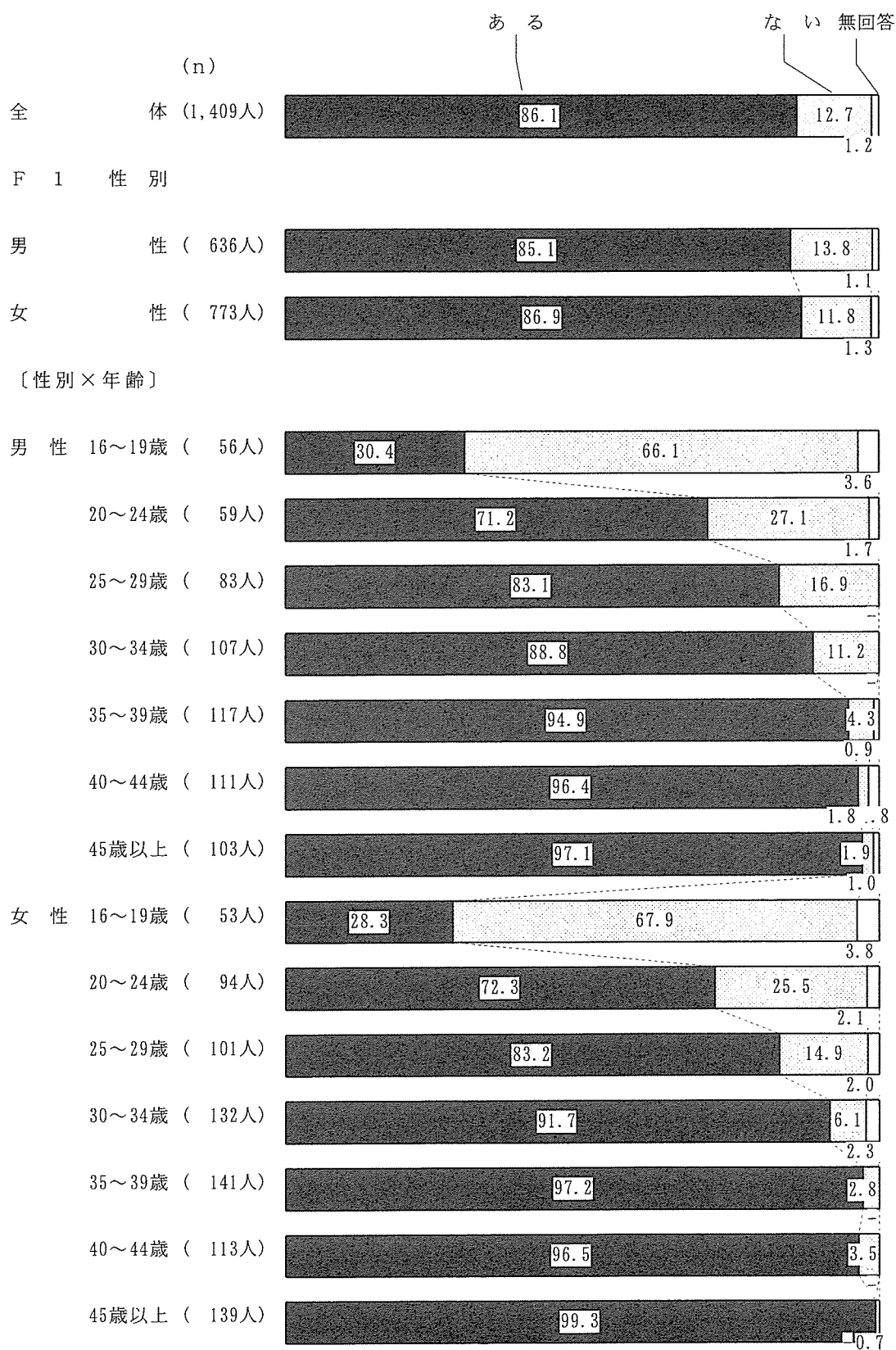


これまでのセックス（性交渉）経験を聞いたところ、セックスをしたことが「ある」という者は86.1%である。

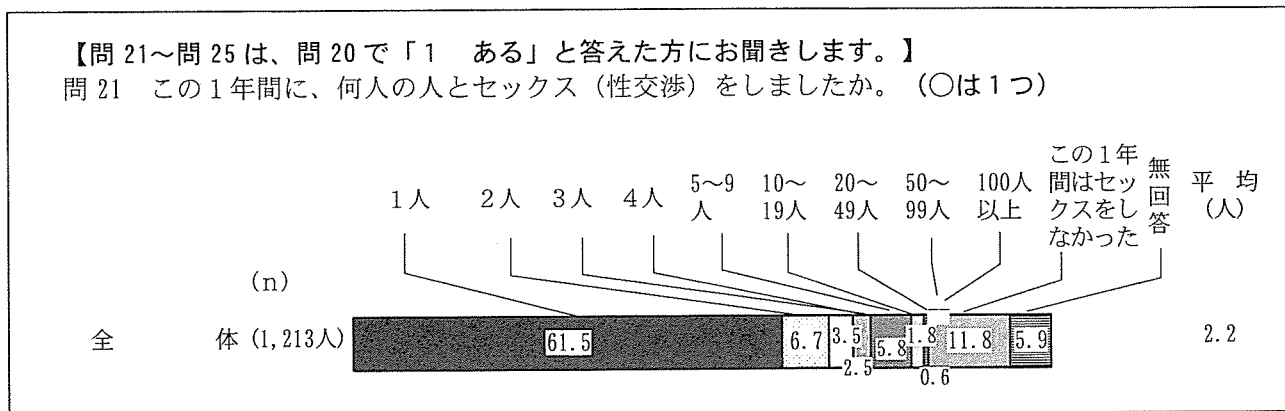
性別にみると（図4-1-1）、男女で大きな差はみられない。

性・年齢別にみると（図4-1-1）、セックスをしたことが「ある」は、男女とも16～19歳（男性30.4、女性28.3%）では3割前後であるが、20～24歳（男性71.2%、女性72.3%）では7割程度に上昇し、男性の35歳以上と女性の30歳以上の年齢層では9割を上回っている。

図4-1-1 これまでのセックス（性交渉）経験の有無（性別、性・年齢別）



2 この1年間にセックス（性交渉）をした相手の人数



これまでにセックス（性交渉）をしたことのある者（1,213人）に、この1年間にセックスをした相手の人数を聞いたところ、「1人」という者が61.5%で最も多く、次いで「2人」と答えた者が6.7%である。

「この1年間は、セックス（性交渉）をしなかった」という者は11.8%である。

性別にみると（図4-2-1）、この1年間にセックスしたのは「1人」とであるという者は女性では65.3%であるのに対して、男性では56.7%で、女性の方が約9ポイント多い。「2人」または「5～9人」と答えた者は男性でそれぞれ1割弱を占めており、女性よりやや多くなっている。一方、「この1年間は、セックス（性交渉）をしなかった」という者は女性（13.7%）では1割を超えている。

性・年齢別にみると（図4-2-1）、この1年間のセックスの相手が「2人」という者は、該当数は少ないが男女とも24歳以下の年齢層で統計的にみて多くなっている。一方、「この1年間は、セックス（性交渉）をしなかった」という者は男性では30歳以上、女性では25歳以上の年齢層で年齢が高いほど多くなっており、女性の45歳以上（21.7%）では2割を超える。

図4-2-1 この1年間にセックス（性交渉）をした相手の人数（性別、性・年齢別）

